

平成 20 年度社員総会（評議員会）議事録

平成 20 年 4 月 26 日 12 時より福岡国際会議場において第 2 回定時社員総会（評議員会）を開催した。

社員総数 200 名 出席社員 158 名（委任状を含む） オブザーバー 7 名

出席理事 大戸 斉（理事長）、高橋孝喜（副理事長）、半田 誠（総務）、星 順隆（法人担当）、
佐川公矯、高松純樹、脇本信博、面川 進、福武勝幸、稲葉頌一、倉田義之、井本しおん、
加藤俊明、前川 平、藤井康彦、浅井隆善、田所憲治、前田平生、

出席監事 藤井寿一（監事）、山口一成（監事）

議長 大戸 斉

以上のとおり定足数に達したので、定款の規定により、大戸 斉は議長席につき、開会を宣し、直ちに議事に入った。

審議事項

1. 平成 19 年度決算案および平成 21 年度予算案について

社員総会資料の表 1、表 2 について当期（平成 19 年 4 月 1 日から平成 20 年 3 月 31 日まで）における収支を総務担当理事から詳細に説明・報告した。また、表 3 の平成 21 年度予算について説明した。

監事は、上記の書類を綿密に調査したところ、いずれも正確、適法かつ妥当であることを認めた旨を報告した。総会は別段の異議なく承認可決した。

2. 名誉会員および特別会員の推戴

名誉会員に伊藤和彦、特別会員に松浦尚雄の 2 名が推戴され満場一致で承認可決した。

3. 新評議員の選考結果

各支部から推薦され審査委員会が審査した評議員選考結果について総理事会で承認された旨の報告があり、総会でも承認された。

4. 第 16 回秋季シンポジウム会長、第 59 回学会総会長について

第 16 回秋季シンポジウム会長に浅井隆善（静岡県赤十字血液センター）、第 59 回学会総会長に半田誠（慶應義塾大学医学部附属病院）が理事長より指名があり承認された。

5. 法人事業としての学術集会・機器展示会の運営方法に関して法人担当理事より提案があった。

この件に関し

公益法人を目指して早急に学会内で議論する必要がある。しっかりした会計事務処理が必要となってくることも含め検討委員会を立ち上げて推進していくことになった。

6. 日本輸血・細胞治療学会支部会費規則について

以下のことが提案され実施されることになった。

6-1 平成 20 年度からは、日本輸血・細胞治療学会の各支部において支部会費を徴集しない。

6-2 各支部の運営資金は日本輸血・細胞治療学会から各支部に配布する。配分に関しては従来どおり基本運営資金として一律年間 40 万円を配布し、各支部独自の事業に関して不足する資金が生じた場合、本年度は暫定的に理事運営委員会で協議の上、不足分を支給する。来年度からは、基本運営資金の一律年間 40 万円に、会員数に比例した金額を上乗せした運営資金を支部ごとに配布する。なお、算定方法等の詳細に関しては今後、理事会で検討し社員総会（評議員会）に諮った上、決定する。

6-3 日本輸血・細胞治療学会としての事業（I&A に関する事業等）に関しては原則としてすべて本学会から資金を拠出する。

6-4 なお、平成 19 年度以前における各支部会が所有する財産の管理に関しては、すべて各支部の責任のもとに行われ、旧支部において適正に運用されるものとする。

その他 支部だけの会員については全支部長が参加した会議で検討してもらいたいとの要望があった。

7. 輸血特別功労賞の新設について

輸血医学の研究、検査、学会活動の分野で、特に優秀な業績をおさめた者、もしくは輸血医学の発展に特に功績のあった者に授与する。受賞者には、賞状および賞金を贈呈する。
総会で承認を受け、平成 21 年度より実施されることになった。

8. その他

会員管理システムについて

(副理事長)

日本輸血・細胞治療学会の会員管理システム、ネット上のアンケート調査などを円滑に実施するための本学会独自サーバーによる Web 対応システム導入の提案があり、会員管理 / アンケート調査 / メーリングリスト等現状との比較が示された。初期導入費用 800 万円、年間継続費用 114 万円が必要であるが事務局内にサーバーを置き検討を進めることに合意が得られた。

報告事項

1. 庶務報告 会員の動向などについて

個人会員 3,980 人、 団体会員 92 団体、 評議員 200 人

支部長の交代: 近畿支部長 倉田義之(四天王寺国際仏教大学)から前川平(京都大学医学部附属病院)に交代した。

物故会員 特別会員 浅井一太郎 平成 19 年 7 月 29 日逝去(享年 95 歳)

名誉会員 大河内一雄 平成 19 年 10 月 10 日逝去(享年 79 歳)

2. 第 56 回日本輸血・細胞治療学会総会準備状況について佐川公矯総会長から報告があった。

3. 第 13 回学術奨励賞の審査結果

保井一太(大阪府赤十字血液センター)論文「白血球抗体反応、免疫複合体刺激によって血球から放出される液性因子」及び論文「顆粒球抗体検出用の HNA-1a, -1b および -2a 遺伝子発現パネル細胞株の作成」が表彰対象となった。会員総会で表彰状と賞金 10 万円が贈られる。

4. 村上記念賞・奨励賞の審査結果

平成 20 年度村上記念賞に中嶋八良(元東京医科歯科大学)が選ばれ賞金 50 万円が贈られる。

平成 20 年度村上記念奨励賞に大谷敦子(兵庫県立塚口病院)が推薦され海外の学術集会参加助成金が贈られることになった。

5. 認定医試験結果 受験者 21 名、合格者 19 名。合格者氏名及び所属は学会誌第 54 巻第 3 号の会告に掲載。

6. 認定輸血検査技師試験結果(19 年度)

申請者 325 名(再申請者 164 名、新規申請者 161 名)

試験 受験申込者 323 名 受験者 314 名 合格者 85 名(合格率 27.1%)不合格者 229 名

登録更新者 183 名 指定施設 更新 23 施設 新規 5 施設

認定技師数 1,351 名、 指定施設数 158 施設 (平成 20 年 4 月 1 日現在)

7. 法人事業報告

I&A は費用負担も含めて法人学会の認定とした。既に 23 施設が法人化以前に視察認定され 21 年 3 月で更新となるので再視察を行う。移行期の視察が 3 施設、新規 6 施設の認定を行う。

DVD「輸血医療への招待」を製作

第 56 回総会事業と共同で製作した。輸血医療を学ぶ人のための教材として、また輸血に関する院内体制の検討資料、輸血の適応決定、インフォームドコンセントの取得の際の資料として活用されるよう配慮した。価格は 2,000 円 制作協力は TBS Vision

8. 学会誌編集状況 投稿論文総受付数 19 年 32 編 20 年 16 編(4 月 2 日現在)

掲載可論文 19 年 26 編 採択率 81.3%

発行済み学会誌への論文掲載数 53巻1号 7編 53巻2号 0編(総会抄録号)

53巻3号 3編 53巻4号 4編 53巻 5号3編 53巻 6号 6編

54巻1号 5編 54巻2号 0編(総会抄録号)

今後の学会誌発行予定と論文掲載数 54巻3号 9編 54巻4号 4編(予定)
19年度から J-stage 対応の編集を行っている。

9. 財務会計報告 審議事項 平成 19 年度決算案および平成 21 年度予算案 で報告審議
10. 各委員会報告

各委員会の活動が委員長により文書または口頭で報告された。

報告された委員会名

理事運営委員会	情報編集委員会	保険委員会	認定医制度各委員会
I&A 委員会	輸血医学教育委員会	輸血療法の安全性委員会	細胞治療委員会
危機管理・大量出血・緊急輸血委員会	学術振興委員会	倫理委員会	

11. 各支部会活動報告

各支部長により報告があった。

12. 第 15 回秋季シンポジウム、第 57 回学会総会及び第 58 回学会総会準備状況

第 15 回秋季シンポジウムは椿 和央会長が大阪国際交流センターにて平成 20 年 10 月 3 日
~ 4 日実施予定、第 57 回学会総会は前田平生総会長が大宮ソニックシティにおいて平成 21 年
5 月 28 日 ~ 30 日実施予定、第 58 回学会総会は高松純樹総会長が実施予定。(会場折衝中)

13. ISBT 総会開催予定等及び ISBT regional congress Nagoya 2009 の準備状況について

高本 滋 ISBT 会長から 1 日目に Japanese day を設けて海外からの一般参加者とは別に独自の
参加費(3万円程度)としたい、参加者は600名ほど集めたいとの報告があった。

14. その他

危機的出血への対応ガイドラインについて (19年12月11日ホームページに掲載)
宗教的輸血拒否に関するガイドラインについて(20年2月29日ホームページに掲載)
病原体不活化技術導入に関する学会の対応(事務局注:理事会で検討後修正され5月23日
ホームページに掲載された。)

以上

文中敬称はすべて省略いたしました。